

## ◆平成28年度を迎えて

学校法人中村学園  
専門学校静岡電子情報カレッジ  
静岡福祉医療専門学校

理事長・校長 中村 徹

入学、進級した学生諸君、おめでとうございます！！

桜花爛漫と思えば、三寒四温のこの時期、体調管理には十分に留意いただきたい。

さて、平成28年度を迎えて、学生諸君は就学に当たりしっかりした「目標」を立て、学校生活において学業を通して、日々の努力から「自己実現」を図るんだ、という強い心構えを確認しなければならない時期であります。

そして、新入生は今までの学校生活では義務教育的に与えられた勉強から、これからは本学に提供された「学びの場」で皆さん自身の意志と意欲で「自ら学ぶ」のです。学内環境では講義、演習、実習などで、試行錯誤の中からそのプロセスを学び、インターンシップ、職場実習や卒業研究、ケアスタディなどのプログラムからも「こだわり」を持って、すべてを通して「自ら考え、カタチにすること」を身に付けていただきたい。これが社会に出てからの色々な問題や壁を乗り越えることのできる力となるのです。

学校生活を有意義におくり、「なりたい自分になる」ためには、この時期に自己の「キャリアデザイン」のイメージを確認し、この具現化を図るために、「こだわり」をもって、「自らが学ぶ姿勢」にかかっているのです。

まず、学生諸君に社会の動向を知って欲しい！

これで社会に自己を売り込む手段が見えてくる！！

そのキーワードをさがそう。

経済的には27年度もアベノミクス「三本の矢」による一体的な取組み政策効果から、15年ぶりに日経平均株価2万円台(現1万5千円台)、5月には円相場12年半ぶり安値1ドル=124円(現108円台)と回復した日本経済だったが、「原油安」と夏には中国経済への不安に揺れ、米国の「利上げ」で新しい局面に入った世界経済。「デフレ脱却・経済再生」と「財政健全化」の推進、そこに9月には2020年に向けたアベノミクス第2ステージにおいて、過去最大の名目GDP600兆円を目指す経済成長の推進力となる「新3本の矢」の発表。第一の矢が「希望を生み出す強い経済」、第二の矢が「夢をつなぐ子育て支援」、第三の

矢に「安心につながる社会保障」を推進し、地方創生、国土強靱化、女性の活躍などの取り組みとあいまって、「新・三本の矢」が一体となって成長と分配の好循環を強固なものとしていく。昨年の10月TPP：日米など12カ国の大筋合意など貿易国としての復活に向けた取り組みも加速。「一億総活躍社会」、「日本銀行マイナス金利」、「18歳選挙権」なども見逃せない。

文化面においては、ノーベル賞の連続受賞ノーベル生理学・医学賞に「抗寄生虫作用を持つ有効物質の発見」の大村智氏、物理学賞に「ニュートリノ振動」の梶田隆章氏と「ノーベル賞」ダブル受賞で脚光を浴びた昨年度の日本であった。

人口問題 少子高齢化のもとで「人口減少」に「超高齢化」と国の力といわれる「生産年齢人口の減少」。

少子化が進み、日本の総人口は2007年1億2800万人をピークアウトに、今年は1億2千万人弱、高齢者率20%（うち後期高齢者8%）、生産年齢人口（「国の力」といわれる）60%が、2050年には総人口9,500万人、高齢者率40%（うち後期高齢者25%）、生産年齢人口50%と減少し、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。

人口減少は、消費者減少になり、内需拡大が難しくなっていく。

また、2015年問題といわれた「少子・高齢社会における団塊の世代の年金問題」がある。戦後の日本経済を牽引してきた「団塊の世代」（昭和22(1947)～24(1949)年生まれ）が2012年から65歳を迎え始め、人生80年といわれる昨年はすべての団塊の世代が年金の全額が給付される65歳以上(3,400万人)になるという問題だ。労働人口の減少が懸念されるほか、年金給付の受給人口の急激な増大により、年金財政への圧迫が懸念される。

現在は現役世代2.3人で高齢者(65歳以上)1人の生活を支えているが、2050年(平成62年)では、人生85年(女性寿命90歳超)、総人口9,500万人、現役世代1.5人で高齢者1人の生活を支える時代となる。高齢化率はダントツに日本が高く、続いて中国、ドイツ、フランスの順。今後、半世紀に亘って、介護職不足が続く。

「マイナンバー制度」の導入。国民一人ひとりに12ケタの番号をふり、個人番号カードが配布され、今年1月より運用された。税の徴収や社会保障に役立つ「社会保障・税番号制度」（マイナンバー制度）が導入された。誕生から逝去までの永久番号である。IT業界離れが進行してIT技術者が不足する中で、マイナンバー制度導入に伴い、システム開発業界で仕事が集中して5年間はシステムエンジニアが不足する。

SNS「日本、死ぬ」の待機児童解消問題

この一言が国会審議で保育士増員が大きく取り上げられている。

また、昨年、総理官邸で開催された第16回日本経済再生本部において、成長戦略の目玉プロジェクトとして、「ロボット新戦略」が決定され、ITとロボットの融合により、生活も産業も劇的に変化する新たな時代に、日本が世界の中心で輝くための「ロボット革命元年」とすると、総理が述べている。

そして、「デジタルビジネス革命」によりITが効率化の道具から、本業を大きく変革するテクノロジーと変わり、「情報ビジネス産業」から「価値創造産業」へと生まれ変わる「新たなビジネスモデル」を模索し、システム化している。

新たなビジネス領域創出：あらゆるものがインターネットにつながるIoT時代。IoT：インターネットがモノをインターネットにつなげることでデータを活用し、新たなイノベーションを生み出そうとするコンセプト、手段である。

これらが大きなキーワードとなる。

さて、本学の教育は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかを使命としている。

## 1. 社会が求める人材像

資源が乏しい我が国は、少子高齢化に伴い、人口減少、しかも生産年齢人口が50%となるなかで、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。「人材」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となり、

- ① 産業構造の変化に対応できる「実践的な職業能力を有する人材」、
- ② 将来にわたり「付加価値を創出する質の高い人材」、
- ③ 労働力のグローバル化が進展するなか「国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材」

などの社会基盤を支える「ヒトづくり」が急務といわれる。

## 2. 学校生活に確固たる目標を持って！

専門学校の教育の特徴は、その柔軟性にあり、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかが使命であり、職業教育の必要性・重要性がより一層増してきている。

諸君が学ぶキャンパスは、極めて恵まれた環境にある。JR静岡駅南口から徒歩数分、通学やアフタースクール等、君たちの学校生活の範囲を広げるのに便利な立地条件だけでなく、学内ネットワークや諸処

の最先端施設・設備、バリアフリーキャンパス。この中で「友情を育み」、「なりたい自分になる」という素晴らしい目標達成に向けての努力に期待します。

創立者の教育理念である高い理想に基づく「挨拶を基調とした全人教育」は、本学園の根幹をなすものです。学校生活においては、「学習を通じて」、社会においては「仕事を通じて」、「自己実現」を図るという教えをしっかりと身につけ、このような教育理念を掲げる本学で学ぶことに「誇り」と「これだけのことをやったんだ！」という「自信」を持って就職活動に、社会に己を売り込むのです。

### 3. 本学は63年の歴史と伝統を持つ実践的職業高等教育機関

今年度も両校揃って就職決定率100%達成を目指す！！

本学は昭和の戦後復興の中、この静岡の地において昭和26年「手につけたい」という女性の強い要望に応え、服飾分野の職業教育機関として創設者中村忠雄先生が中村技芸専門学院を設立。地域に有用な人材を輩出し、実践的職業教育一筋に63年の長い歴史と伝統を持った職業人育成の高等教育機関です。

専門学校静岡電子情報カレッジは創立30年、学校法人中村学園がコンピュータ社会到来による人材ニーズに応え、昭和61年にJR静岡駅南口徒歩約3分の南町ITキャンパスに静岡電子専門学校と専門学校静岡スクールオブビジネスを設立。平成3年に静岡県内初のインテリジェントキャンパスを設置し、平成4年通信衛星JC-SATIIによる双方向性通信衛星教育システム等の最先端IT教育環境を構築。インターネット時代となり平成9年学内イントラネットとマルチメディア工房を設置した県内初のマルチメディアキャンパスに本館(南町キャンパス)を改築。あわせて、両校を統合して現在の「専門学校静岡電子情報カレッジ」が誕生。現在では「ICT情報システム学科、ゲーム応用学科および映像・音響デザイン学科、ロボット創造学科」が設置。創立以来30年間のコンピュータ、ネットワーク、デザインの専門特化された知識・技術、技能の教育に他分野の付加価値を融合し、新価値を創造する先端的な教育システムを先取りし、社会の人材ニーズに応じている。

また、超高齢化社会に対応した「質の高い福祉人材づくり」と、平成10年静岡駅南口徒歩約5分のバリアフリー森下町キャンパスを新築し、「介護福祉学科」および専門学校静岡スクールオブビジネスに平成2年より設置している医療事務系の「医療情報秘書科」を移設して静岡福祉医療専門学校を新設。さらに、平成14年には少子高齢化社会の人材ニーズに応え、静岡県内初の修業年限3年間で介護福祉士の課程を履修したうえに、社会福祉主事、社会福祉士・福祉レクの課程を併

せて履修し、介護系と社会福祉系の国家資格にレクと福祉レクの資格の取得を目指すことのできる画期的な「総合福祉学科」を新設。また、「保育園・託児所不足」、「子ども子育て支援制度：認定こども園」という社会的人材ニーズに応え、近畿大学豊岡短期大学との教育連携により平成21年度保育士および幼稚園教諭、社会福祉主事の国家資格等の取得を目指す「子ども心理学科(3年制)」を設置。そして、身近に子どもたちに寄り添える環境として学内付帯実習施設として平成23年10月に「子育て支援キッズハウス(託児所)ひかり」を静岡駅すぐの南町キャンパスに設置。

このように、両専門学校とも時代の人材ニーズを的確に読み取り、如何に社会が期待する人材育成に役立てていくかを使命としています。

ゆえに、専門学校静岡電子情報カレッジでは、クラウド・コンピューティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「インターンシップ」や「産学連携人材育成プログラム」等の「企業人との交流」を通して、「社会人基礎力」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞察力」、「統合力」、「問題発見・解決力」などの素養を身につける機会を教育プログラムに取り込んでいます。

また、静岡福祉医療専門学校では、少子・超高齢化社会の人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「職場実習」、「ボランティア活動」を通して「職業観のイメージ付け」や身につけなければならない「社会人基礎力」に「専門スキル」を自らが認識できるような「教育プログラム」を構築しています。

これが専門学校静岡電子情報カレッジは創立30年間、静岡福祉医療専門学校は創立18年間就職決定率100%達成と誠に喜びに堪えない快挙で、本学の誇りとするところであります。

### 4. 「職業実践専門課程」として文部科学大臣認定 産学連携職業教育人材育成プログラム

「職業実践専門課程」とは、「職業に必要な実践的かつ専門的能力を育成する」ことを目的とした「実務に関する実践的、専門的な能力を身に付けるための教育・制度・環境が整っている」課程として、平成26年4月より、文部科学大臣認定課程を受け、「職業教育水準の維持・向上」を図る職業教育人材育成プログラムです。

専門分野に関する企業、団体との協力体制が確保され、企業と連携した実習・実技の授業がカリキュラムに組み込まれ、教員も実践教育を行える研修を受けている。学校全体で企業との深い連携体制を築き、最新の実務知識を身に付けられるサポート体制。特に、現在の雇用市場では即戦力が求められ、現場で働ける力を身に付け、断然就職に有利！！

- ① 企業などと連携して職業に必要な能力が身につく！
- ② 企業で実習・実技・実験などの実践的教育を受けられる！
- ③ 学校内の授業でも、企業の専門家が講師
- ④ 企業との連携により、学校関係者による評価・情報公開を実施など

本学の教育は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかを使命と考えています。

ゆえに、専門学校静岡電子情報カレッジでは、クラウド・コンピューティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「インターンシップ」や「産学連携人材育成プログラム」等の「企業人との交流」を通して、「社会人基礎力」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞察力」、「統合力」、「問題発見・解決力」などの素養を身につける機会を教育プログラムに取り込んでいます。

そして、本学の教育方針である『積極的な学外での活動』においては、昨年度はICT情報システム学科高橋卓也君等が静岡市「シズオカ型オープンデータシステムの推進」プロジェクト2016.2.26コンペティション「シズオカアプリコンテスト Shizuoka App Awards」に開発アプリ「しずっ子マップ」でエントリーして優秀賞を受賞！多くの困難を乗り越えての開発の成果で、大きな自信となったことでしょう。

また、『産学連携教育プログラム』による活動として、昨年度は「産学連携プロジェクト」：FM 島田との連携によるオリジナルキャラ&HP制作、FM ラジオ番組制作と15分間のONエア体験をさせていただいた。また、別のプロジェクトでは「企業紹介プロモーションビデオ制作」と「YouTubeへの公開」、「ネットショップの立ち上げ」、「オフィシャルサイト制作」、「Facebookへの展開」等地元企業に大きく貢献。

授業では体験できない貴重な経験に心から感謝です。

本学のもう一つの教育方針である『地域に開かれた専門学校』の活動として、静岡福祉医療専門学校では、少子・超高齢化社会の人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「職場実習」、「ボランティア活動」を通して「職業観のイメージ付け」や身につけなければならない「社会人基礎力」に「専門スキル」を自らが認識できるような教育プログラムを構築しています。特に、病院・福祉等の「ボランティア」、「レクリエーション」等の活動において、地域の方々との触れ合いを通して、地域住民や民生委員、地元NPOの方々から高い評価をいただいた。

これらの成果は、後輩たちが継承し、より高めてくれるものと確信しています。